

2015 年日本切手の発行状況

2015 年は収集家にとっては非常に腹立たしく、収集の対象をかなり吟味していくことを強いられた年になったのではないかと考える。その理由に大きく 3 つのことがあげられるのではないだろうか。第 1 は切手の質の低下に加えての乱発、濫造である。年間 60 件 566 種発行というおそらく世界に例を見ない状態である。過去にカリブ海の島国、アフリカの新興国の切手発行を非難、嘆いていたことを恥じる立場になってしまった。第 2 は発行枚数をなぜか非常に少なくして購入を難しくした切手帳、レターセットの発行である。しかも、これらは必要としない付属物の購入も強いる誠に商魂たくましくものである。第 3 は地域限定という販売が始まったことである。過去のふるさと切手は各地域の中央局であれば購入できたが、かなり狭い地域でしか購入できず、地域外では通信販売を利用するしかないのである。

このような問題を感じさせた 2015 年の 566 種も発行された切手を分野、発行目的・意図で整理したのが表 1、2 である。総数で昨年より 142 種も多く発行され、この数値は過去 15 年を振り返っても異常に多い増加

表 1 分野別発行状況

発行分野	件数	種類
ふるさと切手	16	119
特殊切手	42	431
年賀切手	1	4
普通切手	1	12
合計	60	566

表 2 目的別発行状況

発行目的	件数	集計
グリーティング	14	243
各種シリーズ	27	224
記念切手	7	29
年賀切手	1	4
普通	1	12
毎年発行	4	28
料額変更	6	26
合計	60	566

* 上記表に小型シート含まず

である。内容を見ると、昨年、落ち着いた発行になったかと感じられたふるさと切手が料額変更、地域限定という今までにない形での発行があり倍増したこと、初めてグリーティング切手がシリーズ切手より多く発行されたことの 2 点が注意された。

また、記念切手が半減していることも注意されることである。

急激に増えたグリーティング切手にいくつか目につくことがある。発行件数は少ないが発行された切手の種類と枚数が多い。全体の件数では 23% であるが、種類では 43%、発行枚数は 48% と切手の半数はグリーティング切手が占めているといえる。問題となるのはグリーティング切手に占めるシール式切手である。全体の半数以上を占めるようになってしまったシール式切手（種類の 56%、発行枚数の 72%）がグリーティング切手の 95% を占めていることである。切手の半数がシートでしか購入できなくしている元凶である。希望の切手を買える目打ち式のグリーティングは干支切手 10 種、海外グリーティング（差額用）2 種に過ぎない。

また、その意匠がアニメキャラクターにますます偏ってきたことをどのように考えるか、改まった挨拶状に使用できるグリーティング切手の存在が求められているように感じる。また、大きさについても、せめて国土緑

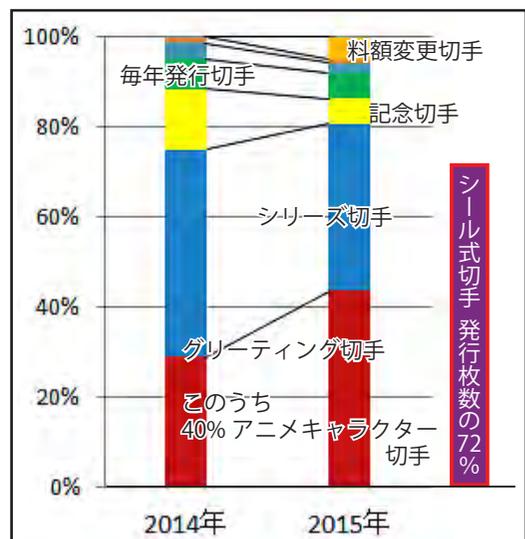


図 1 発行目的別発行枚数割合の比較とシール式切手割合

化切手程度があってほしい。以上述べた一部を図示すると図1のようになる。

また、グリーティング切手は他の目的の切手と比較すると52円切手が多く、グリーティング切手の40%が52円切手であり、これは発行された全52円切手の68%になる。シール式切手が多いことを考慮し、はがきに使用する切手の選択肢を狭めてしまっていると考ええる。

次に、記念切手を見ると件数も種類数も少なくなっており、記念事項の重さと種類数はどうも比例しないような感じがする。一方、種類当たりの切手発行枚数を見ると表3に示す

表3 一種類での切手の発行枚数(万枚)

	通 称	枚数
年賀	年賀平成28年用52円	2165
	星の物語シリーズ 第2集* の3種	900
	おもてなしの花シリーズ 第3,4集 82円	600
記念	津波防災の日制定	600
	夏のグリーティング	600
準記念	国際文通週間 90円	500
	ディズニー キャクターグリーティング	450
記念	日韓国交正常化 50周年*	420
準記念	国際文通週間 110.70円	400
	野菜とくだものシリーズ 第3,4,5集	400
	おもてなしの花シリーズ 第3,4集 52円	400
準記念	切手趣味週間*	390
	ほっとする動物シリーズ 第3集	360
年賀	年賀平成28年用82円	360
	ふみの日にちなむ郵便切手	350
記念	ハナミズキ寄贈 100周年*	300
記念	青年海外協力隊発足 50周年	300
	グリーティング切手 ピーターラビット	300
	グリーティング切手「ムーミン」	300



結果であり、改めてグリーティング切手の発行枚数の多さがわかるのと記念切手の1件当たりの種類数、発行枚数、更に、意匠を発行目的に照らして、どのように決められているのかを考えさせられる。

このようにグリーティング切手=シール式切手が非常に多くなったことが印刷関連に影響がみられた。それは印刷方式と印刷機関の変化である。切手の「美の壺」の一つとされた純粋な凹版切手が消えてしまった日本切手はオフセットとグラビアだけになってしまった中で、グリーティング切手の前述した12種だけがグラビアで残りすべてがオフセットであるため表4のように全切手の76%がオフセットになってしまった。そこで印刷機関と印刷方式を整理したのが表5である。過去に比べると凸版印刷会社が種類数で50%、印刷枚数で60%と切手が発行されてから初めて一民間機関が切手印刷の過半数を占めた年になった。これは、非常に多い印刷量を国立印刷局が新規普通切手の印刷と合わせては負いきれなかったからか、従来からシール切手を主に印刷してきた凸版印刷会社の実績からか、図2に見られる今後の動きに注意していきたい。

次に、販売数を非常に制限して発行した小型シートとノートレターセットに組み込まれ

*同一シート内で枚数の多いものを記す

表4 切手の種類と印刷方式

印刷方式	オフセット	グラビア	総計
ふるさと切手	68	51	119
特殊切手	364	67	431
年賀切手		4	4
普通切手		12	12
全 体	432	134	566
	76%	24%	

表5 印刷方式と印刷機関の割合

印刷機関	発行件数			発行種類数			発行枚数(万枚)	
	合計	オフセット	グラビア	合計	オフセット	グラビア	合計	割合
Cartor Security Printing	13	13		131	131		25800	23%
JOH ENSCHEDE STAMP	3	3		16	16		2500	2%
国立印刷局	22		22	134		134	17205	15%
凸版印刷会社	22	22		285	285		67532	60%
合 計	60	38	22	566	432	134	113038	

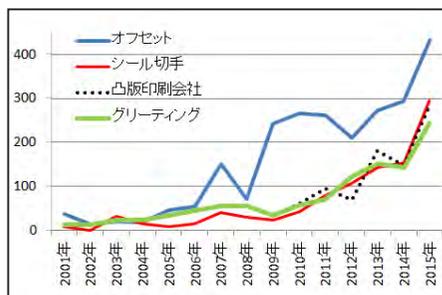


図2 印刷方式、機関、切手の種類数の変化

た限定版グリーティング切手発行の問題である。両者とも2～3万シートという信じられない発行数、希少価値を狙い、投機的な動機の切手収集再来を意図したものであろうか。来年にはまた本年と異なる切手帳の発行が発行数を少なくして予定されているようで、大



発行予定枚数を2万から3万枚に変更した切手帳の小型シート。2000円の小型シートのために5000円の出費を強いられた。



郵便会社 HP の新着切手情報一覧には掲載なく、切手とは扱わないのか、新着切手で探すことはできない

図3 発行枚数の制限と付属物付発行、販売のシート量発行と限定発行で収集家を悩ますことが続くのであろうか。これも民営化による影響かと思うと複雑な思いである。

最後に、地方版切手の発行とその地方限定販売方法が収集家を悩ませ、今後に不安を感じさせた問題である。料額変更という切手26種(封書料額変更に対応14種、旧はがき料額から封書料額に変更12種)とグリーティング切手地方版の地方限定販売である。地方限定販売は一つの地域振興策にでもなるかと少しは理解しても、グリーティング切手地方版の発行の方は非常に問題を感じる。1種類の地方限定版切手を手にするために不必要な9種類の切手を購入しなければならないという発行なのである。つまり日本のシート式切手のシートのみでの販売方法という問題がこのグリーティング切手地方版に大きな形で現れたのである。具体的には38種類のシール



キティと牧場



キティとフルーツ

沖縄版と北海道版グリーティング切手

上のような地方独自の切手は52円、82円1種ずつ13地方から26種が発行された。

7種10枚切手の上のようなシートが13の地方から発行された。上の1種4枚は13の地方毎に異なるが、下の6種は13地方のシートで同じ切手が配されている。

図4 地方版グリーティング切手

切手を手にするのに260枚のシール切手を購入する必要がある(図4)。今後もこのようなキャラクター意匠のシール式切手を無駄に手にするかと思うと切手収集意欲は消えていく。こうなると過去の咲き乱れた雑多のふるさと切手が懐かしくなるから不思議である。

このような色鮮やか過ぎて非常に美しすぎる切手をすべて1枚ずつ購入可能として幾らの小遣いを用意したらよいのか。実に42627円が必要である。これに小型シートのため切手帳5000円、グリーティング切手地方版を手にするため重複し不要な切手のため14874円、限定版1080円で合計63581円となるが、この額にはこの他に重複する切手(例えば星の物語シリーズ切手の重複6枚等)の金額は含まれてなく、切手帳、地方限定切手購入に利用せざるを得ない通信販売の利用費用なども考慮すると優に7万円を越すかという金額になる。このような状況ではとても収集家が増えることは考えられない。

ここまで問題にした数でなく質ともいえる



図5 昨年と名称が変更された18円切手

面に変更が見られた。昨年、海外年賀切手(差額用)として発行された18円切手2種が海外グリーティング(差額用)になったことである(図5)。これはクリスマスMAILを考慮してのことと考えるが、なぜか発売終了は1月末に延ばされたのに、発売開始は年賀切手と同じ10月末のままである。クリスマスMAILを視野に入れたなら、販売開始を年賀切手より早めてしかるべきであろう。

また、特殊切手に92円切手が初めて発行された。今後も発行されるのか、今年初めて登場のハッピーグリーティングという切手30種のうちの10種である。今後、92円の特種切手の発行が増えていくか全体の発行数の中で注意してみていく必要がある。ちなみに、本年の発行種類では特殊切手の2%で

ある。他は、はがき用55円がやや多くなり29%、封書用82円が68%、発行枚数でも総枚数11億3000万枚のうち、ほぼ同じ結果で、それぞれ29%、69%という発行状況である。

このようにいくつかの問題を感じる切手発行の中では是非改善を期待したいのがシール式切手の発行方法の改善と対象の拡大である。具体的にはシール式切手の発行を普通切手にも広げ、コイル式シール切手、希望枚数購入可能シール式特殊切手等のあり方をも含めて検討されてしかるべきであろう。多量の郵便物を扱う事務所等で取扱いが便利であるため、シール式切手を利用していると耳にする。利用者の立場を考えるなら、より利用しやすいコイル式のシール式切手等が一日も早く用意されることが望まれる。

さらに、キャラクター人気に頼った切手意匠が目立つグリーティング切手を諸外国のグリーティング切手と思われるもの(図6)と比較して大人のグリーティングの手紙に相応しいものが発行されることを期待したい。

以上のような切手発行の現状では生活防衛を考慮し、自ずと厳しく吟味した切手の購入と、使用済み切手収集等へシフトしないと切手を楽しめない時代になってしまったと考えざるを得ない。(編集子)



図6 諸外国のグリーティング切手に類してるかと考える切手